

リフレッシュ滋賀

第10号
連合滋賀・高退協会報
発行責任者: 吉村真明
編集責任者: 嶋澤順三
大津市松本2-10-6
電話: 077-523-0500

滋賀県高齢者集会報告

九月二十日十時半〜十三時
於 勤労福祉会館「つつがやま荘」

連合滋賀・高退協では例年の行事として、滋賀県高齢者集会を九月二十日に「つつがやま荘」で開催しました。

高齢者人口が増え、それを支えるための



介護保険がスタートしたが必ずしも高齢者の意に沿うものではない。自らの身を守るため先達の生き方を学び、澁刺と輝いて生きようと力強い挨拶がありました。

来賓の下戸連合滋賀会長からは、衆議院選挙のお礼と、政治を改革するための民主党への期待と協力の呼び掛け、現在の組合活動の問題点と対応策、参院補選への協力依頼等の挨拶がありました。



来賓として民主党滋賀県連副代表の法雲俊昌氏より参議院補選への立候補にむけての力強い挨拶がありました。

その後、本題の講演に入り、ゼンセンOB友の会副会長 住森通禮氏による「生涯生活と労働組合」と題して、ご講演いただきました。

【講演要旨】

会社で籍中の三十年間組合の幹部、退職して九年になるが、現在は無報酬を原則としてボランティア活動をしている。おかげで退屈せず忙しく遊んでいます。在職中は組織で生きてきたため、その経験や知識が基本になっています。特に一九六五年―USY国際青年祭に、始めて海外に出張し、ドイツ、イスラエル、ノルウェーなどヨーロッパ各国を訪問したその時の経験が大きく影響しています。

ヨーロッパの組合運動は、フランクフルト宣言(一九五一)が共通した基本となっている。その基本は①集団自衛権②社会に貢献③社会主義と共産主義の区分の明確化などとし、人間の幸せを目的としたことを明確にしている。ちなみにドイツの組合(DGB)では公園、博物館建設などの文化施設に寄付をする。また組合の役員が会社役員として、会社運営に経営参加するのも当時新鮮であった。

一九八〇年当時、東レとダウコーニングが合併会社設立時に組合員の身分も出資比率の高いコーニングに移籍する問題が生じて、米国コーニング本社まで交渉に行き、移籍により従業員の生産性が落ち、利益につながらないこと及び身分確保のための「連合会構想」を理解して貰い、移籍せずに出向とすることで合意した。当事者の合併会社社長のネグレイさ

んと交渉した経緯があり、今もお付き合いさせて頂いている。

私の得意な話はお酒の話で「美酒を味わう会」の会長をしている。おいしい純米酒の最高品を造るには「YK三五」(山田錦、最高の酵母、米を六五%削る)が必要。ぜひおいしい純米酒を味わって下さい。その他発起人、世話人、ゴルフの会、町内自治会を務めて来年七七歳になりますが生きて毎日過ごしております。

また、月刊「正論」誌十月号に記載の「日本の覚悟を問う」と題する、真珠湾攻撃の事実に基づいた記事の紹介と考へ方が紹介されました。

連合近畿ブロック

高齢・退職者連絡会

第七回総会開催される

八月二二日大阪府立労働センターで、第七回近畿ブロック総会が開催されました。花房会長の近ブロー三万のパワーで、言行一致の行動・運動を進めようとの力強いあいさつがありました。引き続き来賓として前田連合近ブロー連絡会代表幹事、西田日本高退連会長の挨拶を受けました。

議事として経過報告、活動方針として全国高退連への積極参加、年金、医療、介護などへの取り組み、当面の活動計画の承認、役員選出などの議事を盛会のうちに終えました。

最後に総会宣言として「高齢者は社会を支える一員として、本格的な高齢者社会をいきいきとした社会にするため、高齢者の自立と社会参加を一層進めて行くことが国際社会の常識」との主旨の宣言文を採択し総会を閉幕しました。

二〇〇〇全国高齢者集会開かる 今年は「絆」をテーマに

例年九月一五日に開催される全国高齢者集会が、今年も敬老の日に東京国際フォーラムで開催された。滋賀高退協からは吉村会長及び伊藤事務局長が出席した。

開会挨拶、西田八郎退職者連合会長の主催者代表挨拶、連合代表笹森事務局長の挨拶、須藤事務局長の基調報告、集会のアピール等で一連の第一部行事を終了。西田会長の挨拶要旨は公助、共助、自助の三助の精神で進んでいこう。政治は公助を減らすな、我々の代表を国会に送ろうと締め括りました。

第二部は「みんなでしようラジオ体操」で始まり、弁護士堀田力先生の「二十一世紀の生きがいある高齢社会の創造」と題した講演がありました。講演の要旨は、産業革命以来世界的に人口増、高齢化が進み人口抑制、少子化、逆ピラミッド型人口構成の中で、社会保障の基本問題をどう解決していくかが大きな問題になってきた。ひとつの解決方法として、自助努力・共生により生き、輝いて生きる。財産を残さない。最近リバースモーゲージという不動産の利用法が検討されており、その方法で自分の不動産を流動化し活用する。自助の努力として、高齢者の知識、経験を生かしたサービスの仕事、たとえば苦情処理、社員教育などをする。また特定の腕のある人が登録しておき、オンラインで訪問、解決に当たるといふナルックという制度を利用することもよい。これらの制度なりまわりの環境を利用して、積極的に生きていくことが我々高齢者の生き方として大切ではないでし

ようかとの提言があった。

第三部はおたのしみ抽選会であったが、残念ながらわれわれには微笑まなかつた。引続き第四部アトラクションとして三遊亭圓歌の創作落語で締め括られ、全国から集まった多くの仲間たちの歓声で盛り上がりつつ集会を終了した。

囲碁・将棋大会 高退協より囲碁の部に二名が入賞!!

連合滋賀の文化活動の一つである「囲碁・将棋大会」が開催され、連合滋賀高退協も共催して、九月三十日(土)にこいの村びわこにおいて約五十名が参加し、開催されました。

今年も昨年に引き続き大会の対戦方式を囲碁・将棋とも「スイス方式四回戦」とし、全参加者が一日中対戦し、交流できる方式で行われました。

組合せ決定後、囲碁・将棋とも一局一人四十分の持ち時間制で、対戦を行い、囲碁の部では、Aランクで奥村敬一氏(NTT退職者の会)が第三位に、Cランクでは馬淵観寿氏(全通・通友会)が準優勝されました。

現役とOBの文化の交流の場として、有意義な一日でありました。



ゼンセン同盟OB友の会滋賀県支部(会員約二、六〇〇名)では、親睦行事として一泊親睦旅行と日帰り親睦会を交互に開催することになっているが、本年は八月二三日琵琶湖汽船「ビアンカ、ディクルーズ」での日帰り親睦会を開催した。

とくに本年は、ゼンセン同盟滋賀県支部のご理解によって、加盟各単組・支部専従書記局職員親睦行事との共同開催となり、多くの女性職員の皆さん方の参加も得て、非常に華やいだ和やかな親睦会となった。

OBの皆さんは年一回の楽しみを待ち切れないのか、「ビアンカ」の浜大津港出港午前十一時よりはるかに早く、猛暑の中十時前頃からいつものメンバーが三三五五待合室に顔を見せ、「どうやってる?」などお互い元気な姿を喜び合っていた。

午前十一時丁度「ビアンカ」の浜大津港出港に合わせて、OB会事務局の梶田ゼンセン県支部次長の司会により親睦会が開始され、田中OB会支部長の挨拶の後、浅尾県支部長から「かわばた達夫」V5達成の衆院選へのお礼を含めた挨拶があり、吉田OB会副支部長の乾杯で懇親会が始まった。

懇親会は琵琶湖汽船側の配慮で、一室がゼンセンOB友の会貸切りとなり、食べ物が高齢者向きにアレンジして用意され、また飲物も本来は提供されていない冷えた日本酒が出されるなど、参加者には大変好評だった。

ゼンセン同盟OB友の会滋賀県支部 “ビアンカ、ディクルーズ”で 親睦会を開催



懇親会の盛り上がりにつれ、あちこちで単組専従職員を囲んでの輪ができ、昔話に花を咲かせる元気なOBの姿が見られ、OB現役一体となった懇親会となり、当初の趣旨が生かされるものとなった。

舞子港到着後「ビアンカ」はしばらく停泊したが、暑いデッキには人影も少なく、参加者の殆んどは冷房の効いた会場での懇談に熱心であった。

舞子港からの帰途は「ビンゴゲーム」でフィーバーした。ビデオ画面に数字が表示される度に「二喜一憂」

歓声が上がリ、参加者の殆んどがこれほど数字に固執した時はないだろうか。

賞品としては当日抽選・翌日発表の「宝くじ」が多数用意され、特定の賞を設けず用意した賞品がある限りビンゴシュート

した全員が入賞となったが、本番で当選した「宝くじ」があったかどうかは定かには聞いていない。

「ビンゴゲーム」の歓声の嵐が落ち着いた後、住森ゼンセン同盟OB会本部副会長のあいさつで懇親会が締めくくられ、「ビアンカ」は午後四時過ぎ無事浜大津港に到着し、参加者全員またの機会を約束してそれぞれ散会した。

今回の親睦行事で大変お世話になった琵琶湖汽船のスタッフの皆さんに心から感謝したい。

古文書が語る一世紀の格差

東レ滋賀OB 田中 三郎

はじめに 老後を、いかなることに生きがいを見出し、アクティブに生きるかは、人それぞれによつてモチベーションが異なりますが、とくに男性は、行動を起こすことに躊躇があることは、地域が企画する文化活動や生涯学習の場、ボランティア活動などの参加率を見れば一目で知れます。

一歩踏み込めば、自ずと道が開けていくのに、細君を先導役にしたリ、矢面に立てたりする人が多く見受けられます。やることに無いと、経済的な理由もあるでしょうが、怠けているように思ふ戦前派の人生観が頭をもたげ、働く意欲が沸き、いきおい第二の戦場に魅力を示すことになりました。働くことは、高齢者として応分の負担を果たす意味で尊いことですが、長い会社生活で得られた経験やノウハウが後押ししてくれるので、見方によってはイージーな選択肢とも受け止められます。

一方、年金を容量のきまつた籠の嵌った水桶とみなして、将来像の見えてこない生涯学習や、漏水覚悟の奉仕活動には、家族の同意や理解も必要で、現実には働く以上に厳しいといえましょう。わたくしは、後者を選びましたが、会社生活で過ぎた時間が、定年と同時に空白になり、それを埋めて時間を消化できる趣味となると、中途半端には有り得ないと考えて、地域が願望して日の目を見ていない現住所の歴史調査に挑戦し、旧膳所藩大萱村の庄屋文書をはじめ、近隣の古文書の解説に取組、平成十年には郷土史展を開催して、テレビや新聞に取り上げていただ

きました。

一世紀の格差 人間が切望し尽きないもの

の第一は、長寿を得て、それを全うすることではないでしょうか。昭和四十五年、日本は高齢者の全人口に占める割合が七%に達し、高齢化社会が到来しました。それが平成六年、わずか四分の一世紀で十四%となりました。長寿命となった背景にはいろいろありますが、そのひとつに医薬の進歩が考えられます。紹介する古文書は、天保八年(一八三七)四月、飢饉がピークに達し、幕府老中であつた水野越前守が、流行した疫病に対する漢方薬の処方箋を各藩に伝達したものです。合成薬品は無くても当然ですが、ここで驚くことは、天保をさかのぼることおよそ百年、享保十八年に伝達したものとの丸写しであつたことです。言い換えれば、百年間医薬の進歩がなかつたことです。江戸期、日本は百五十回を越える飢饉に晒され、三大飢饉といわれる享保・天明・天保の飢饉の薬事処方箋に改善がみられませんでした。江戸末期まで進展がなかつたわけで、大萱の古文書では、江戸期、人口の一割が減つたこともあり、結果として、江戸期の人口や家数は微増でした。おわりに 古文書は、「貧」の一言で総括されるような内容の中で、お互いに心を通わせながら、せつせつと生き続けていました。そんな江戸期と比較して、われわれは、悲惨な戦争体験を除けば、良き時代をあまねく享受できており、長寿となつた部分を社会に還元しないで、ただ社会保障にすぎることには後ろめたさを覚えます。

古文書は、人生観を見直す温故知新のテキストであり、温故知新の原点は、それを読み理解することにあります。

一 天保八丁酉年四月廿七日御老中水野越前守様

御渡之御書付

時疫流行候節此薬を用ひて其煩をのかるべし

一 時疫ハ大徒なる黒大豆をよく煎りて

一 合 甘 草 一 匁 水 二 せんじ 時々

呑てよし 右医渥二出ル

一 時疫ハハ 茗荷の根と葉を徒きくたき

汁を取り多く呑てよし 右時後備急方二出

中 間 省 略

右之漢方凶年の節邊地の者難食の毒にあたり

又凶年の後必疫流行の事アリ其為二簡便

方を探むべき旨仰付らるるに御書之内より吟味

いたし書くなり

いたし書なり

享保十八年 辛 丑 年 十二月

望月三英 丹羽正伯

右者享保十八年辛丑年飢饉の後時疫流行いたし

候処町奉行所へ板行被仰付御料村々江被下候写

右者當時諸国村々疫病流行いたし又ハ輕き

もの共難食の毒に当り相煩致難儀候趣相聞候

天明四辰年御薬法御救のため相觸候年久敷

事故村々にて遺失致候義も可有之候付此度為

御救 右之写猶又村々江領主地頭より可被相觸候

四月

一 天保八丁酉年四月廿七日御老中水野越前守様

時疫流行候節此薬を用ひて其煩をのかるべし

一 時疫ハ大徒なる黒大豆をよく煎りて

一 合 甘 草 一 匁 水 二 せんじ 時々

呑てよし 右医渥二出ル

一 時疫ハハ 茗荷の根と葉を徒きくたき

汁を取り多く呑てよし 右時後備急方二出

中 間 省 略

右之漢方凶年の節邊地の者難食の毒にあたり

又凶年の後必疫流行の事アリ其為二簡便

方を探むべき旨仰付らるるに御書之内より吟味

いたし書くなり

いたし書なり

享保十八年 辛 丑 年 十二月

望月三英 丹羽正伯

右者享保十八年辛丑年飢饉の後時疫流行いたし

候処町奉行所へ板行被仰付御料村々江被下候写

右者當時諸国村々疫病流行いたし又ハ輕き

もの共難食の毒に当り相煩致難儀候趣相聞候

天明四辰年御薬法御救のため相觸候年久敷

組織紹介

滋賀県退職教職員協議会

かつて教職活動を共にした者同志の連帯感・退職後の交流・連携を保っていきたいと考え、「滋賀県退職教職員協議会」(滋退協)を結成し、十八年を迎えています。

事務所を教育会館におき、会長・副会長・幹事・事務局からなる役員組織のもとに、会員数二〇〇名程の会ですが、手づくりによる広報「滋退協通信」の年三回の発行、会員の作品展、研修旅行、県教組との交流会、「滋賀心の電話コーナー」による教育相談活動など滋退協独自の活動をすすめるとともに、日本退職教職員協議会(日退教)、退職婦人教職員協議会(退婦教)、連合高退協等の諸活動への参加のほか、近畿ブロックの退職教職員の仲間と連携交流を図り、年金・税金・介

護・医療等の問題はもとより、平和を守る運動、教育の民主化等にとり組んできました。

会員の中には、社会教育や趣味・特技を活かした地域活動・中国砂漠緑化に回を重ねる者など、広報や作品展に寄せられるものには、本会ならではの多彩なものがあります。

急速に進む高齢化社会の中で、自らの生き方をより確かなものとし、激動の昭和を生きぬいてきた貴重な経験を活かし、生き甲斐のある安心して暮らせる社会を目指し、諸活動を積極的にとり組んでいきたいものです。

今後共よろしく願います。

滋退協会長・亀川 正春

滋賀県最低賃金を改定

連合滋賀の二〇〇〇年最低賃金引き上げの取り組みは、三月二日に労働基準行政に関する要請書を提出、七月二日の中央最低賃金審議会より答申された内容(目安:Bランク四二円)を受けて、滋賀では七月三十一日に最賃審議会を開催し協議に入りました。さらに改定審議会の専門部会は、八月一日を皮切りに四回の専門部会を開催し活発な協議を行いました。私たち労働側としては、Bランク五年を経過しても未だ静岡県との開差が縮まらず、縮小もしくはBランクにふさわしい

アップ額を目標に使用者側に迫りましたが、理解の得られないまま公益委員の四三円の見解に従い、八月九日の第三回の審議会で結審しました。この結果日額で一円の上積みをはかることができ、時間額においても同等の一円の上積みとなりました。これにより静岡との開差も時間額で二二円が二〇円となり、アップ率も全国の中ではトップの一・〇九%となりました。

2000年滋賀県最低賃金・改定結果

日 額	5,120円→5,163円
時 間 額	640円→647円
アップ額	目安42円+1円/日、6円+1円/時
アップ率	0.84%/日、1.09%/時
発 効 日	2000年10月1日

高退協カレンダー

H二二年五月～九月

五月二十九日

高退協幹事会

六月二十九～三十日

近ブ口研修会・幹事会

於 いこいの村琵琶湖

吉村会長、伊藤事務局長出席

八月九日

高退協幹事会

八月二十二日

近ブ口高退連第七回総会

滋賀より十四名参加

詳細は一面記事参照

八月三十日

連合滋賀・議員団会議第十回定期総会

今回から高退協も参加

九月十五日

二〇〇〇全国高齢者集会

於 東京国際フォーラム

詳細は二面記事参照

九月二十日

連合滋賀高退協二〇〇〇高齢者集会

詳細は一面記事参照

九月三十日

連合滋賀囲碁・将棋大会

於 いこいの村琵琶湖

編集後記

今年の滋賀県高齢者集会は、高齢世代をいかに有意義に生きるかを学ぶため、ゼンセンOBの住森先生に御講演をお願い致しました。要約を掲載させて頂きましたので参考にして下さい。

高齢者全国集会在持たれ、高齢者の生き方として自助・共助・公助の精神で生きること、特に自ら輝いて生きるよう心がけることが我々高齢者の生き方との主張がありました。

何事にも参加する意欲をもって前向きに取り組み、こころの健康、からだの健康を維持したいものです。

投稿歓迎！

会員の皆さんからの投稿をお待ちしています。原稿は左記までご送付ください。

〒520-0807 大津市松本2丁目10-16

連合福祉会館内

連合滋賀・高退協事務局